

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち
基本施策2	自然と調和した安全で快適な都市の形成
施策32	上水道
基本方針	安全でおいしい水を安定供給できるよう、水道施設の適切な維持管理及び水質管理に万全を期すとともに、事業の健全経営に努めます。

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	管路耐震適合率	15.80%	(平成22年度)	17.10%	17.70%	18.60%	19.50%	20.40%	20.30%
指標2	水道料金の収納率(現年度分)	99.22%	(平成22年度)	99.36%	99.27%	99.43%	99.38%	99.37%	99.30%

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成28年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	予算執行率	進捗状況	妥当性(必要性)	効率性(手法)	有効性(成果)	方向性	
1	「羽村の水」事業の展開	88,492	81.9%	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	配水管の耐震化	130,237,200	99.9%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
3	水安全計画に基づく危機管理体制の強化	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
4	水道施設の計画的な更新・改修	72,002,142	93.7%	計画どおり完了	○	○	○	A	
5	水道料金の適正化	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
6	水道料金徴収業務の委託化	68,537,512	99.9%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
7	羽村市水道ビジョン後期計画の策定	99,630	61.5%	計画どおり完了	○	○	○	A	*

4 施策評価

① 施策の評価

水道管路の耐震化については、水道ビジョンに基づき配水管の耐震化を進めたことにより、管路の耐震適合率が平成22年度から5.0ポイント上昇し、平成28年度末で20.4%となったが、まだ、法定耐用年数を経過し老朽化している配水管や耐震性能が低い硬質塩化ビニール管等が市内全域に布設されており、今後も計画的に配水管の耐震化を進めていく必要がある。

水道料金の徴収業務については、委託先事業者と毎月1回の定例会等で目標の達成状況の報告や問題案件の確認及び事業の進捗状況等の報告や調整を行い、また、収納率向上のための手法等の見直しを行うことで、目標値の99.30%を上回る99.37%の料金収納率を達成することができた。

② 今後の方向性(改善への取り組み等)

水道管路の耐震化については、長計の実施計画の重点事業として、平成28年度において策定した「水道ビジョン後期計画」及び「水道管路耐震化更新計画」に基づき、重要給水施設管路を中心に継続して着実に進めていく必要がある。なお、工事の実施するにあたり、他部署との連携を図って行く。

水道料金の徴収業務については、委託業者のノウハウを活用することで、比較的高い料金収納率を維持しており、平成29年度以降も徴収業務を民間委託することとしている。今後も、水道事業の円滑な運営のために、上下水道業務課と委託事業者間で定期的な打合せに加え、適宜、課題解決のための打合わせ等を実施し、情報を共有しながら徴収業務を進めていく必要がある。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	上下水道部		上下水道業務課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1 「羽村の水」事業の展開		平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	環境保全課・広報広聴課					
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号 8

2.事業の概要

事業内容	独自の水道事業を展開する羽村市を前面に出し、「安くておいしい良質な水」を利用する価値を広く周知することで、市民の羽村市への愛着を育むとともに、羽村市へ進出・移住を検討する企業・住民をターゲットとしたシティプロモーションに活かしていきます。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	羽村市の特色の一つである水道事業を市内外に広く周知するとともに、羽村市への進出・移住を促進する。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	ペットボトル水「水はむら」の販路拡大・市内外のイベントでの販売	同左	同左	同左
	水資源の保全と活用策の検討	水資源の保全と活用策の実施	同左	同左
	環境省「ウォータープロジェクト」への参加	同左	同左	同左
		リーフレット「水だより」を全水道使用者に配付	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	1人	30H	1人	30H	1人	30H
主事・主任職	0人	0H	1人	30H	1人	30H	1人	30H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	108	108	108
人件費(係長職)	0	150	150	150
人件費(主任・主事職)	0	102	102	102
総事業費(合計)	0	360	360	360
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	0	360	360	360
財源内訳(合計)	0	360	360	360

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成28年度前期においては、リーフレット「水だより」を活用し、現水道使用者及び羽村市内に移住を考えている方々に羽村の水の良質さをPRした。また、前期から後期にかけて体験型のイベントとして、水道週間・環境フェスティバル・エコプロ2016(東京ビッグサイト)等のイベントで、水の飲み比べ「きき水」を実施して、羽村市の水のおいしさや清澄さを、市内外に向けて広く多くの方々に知っていただく取り組みを行った。

また、水資源の保全と活用策の実施については、平成28年度は引き続き検討を行い、実施には至らなかった。ウォータープロジェクトについては、環境省のウォータープロジェクトウェブサイトにて羽村市の活動状況を掲載し、水循環に関する講演会などにも参加した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	108,000	0	108,000	88,492	81.9%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
	リーフレットによる「良質な水道水のPR」活動や、イベント時の「きき水」で、実際のはむらの水道水とペットボトル水の飲み比べ体験を通じて、水道水のおいしさを再認識していただくことができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性					
低	<table border="1"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当								
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討									
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討									
		低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
羽村の水のPRについては、今後も、体験型のイベントである「きき水」の実施や、より分かりやすい内容のリーフレットの作成、市外のイベントにおけるPR活動など、市内外においてさまざまな機会を捉えて、PR活動を充実させていく必要がある。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	上下水道部		上下水道設備課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
2 配水管の耐震化		不明 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
01	管路の耐震化	不明 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
02	管路耐震化更新計画の策定	平成 28 年	今年度限り	自治事務(市独自)	直営	○
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち		施策区分	32 上水道	事業番号	1

2.事業の概要

事業内容	耐震性の高いダクタイル鋳鉄管の新設及び管種替えを行い、管路の耐震化を図る。					
根拠法令	水道法					
条例	羽村市給水条例					
要綱等						

3.成果指標

成果目標	配水管を耐震性の高いダクタイル鋳鉄管に管種替えを行い、水道水を安定給水する。					
------	--	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	配水管の耐震化 延長1,772m 新設165m 管種替1,607m 管路耐震適合率 19.5%	同左 延長1,861m 新設120m 管種替1,636m 移設10.5m 管路耐震適合率 20.4%	同左 延長1,708m 新設873m 管種替702m 移設133m 管路耐震適合率 21.1%	同左 延長1,523m 新設118m 管種替1,405m 管路耐震適合率 21.8%
		管路耐震化更新計画の策定	管路耐震化更新計画による施工	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	1人	296H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	2人	977H	1人	569H	2人	977H	2人	977H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	154,823	182,440	184,414	156,607
人件費(係長職)	0	1,473	0	0
人件費(主任・主事職)	7,031	1,935	6,642	6,642
総事業費(合計)	161,854	185,848	191,056	163,249
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	15,685	13,301	1
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	70,000	70,000	70,000	70,000
一般財源(人件費含む)	91,854	100,163	107,755	93,248
財源内訳(合計)	161,854	185,848	191,056	163,249

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	3,302	円
イ 対象者	56,281	人における1人あたりのコストは、	3,302	円
ウ 成果物		の出来高		円
※ 対象者: 給水区域内				円

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

当事業は、平成22年度に策定した「羽村市水道ビジョン」に基づき、既存の硬質塩化ビニール管を耐震性に優れているダクタイル鋳鉄管に管種替えを行い、計画的に管路の耐震化を図るものである。平成28年度は、配水管管種替工事4件1,653m、区画整理地区内の配水管移設工事1件118.9mを実施した。
 また、水道管路の耐震化に向けた管種替工事を計画的に実施してため、「水道管路耐震化更新計画」(平成29年度～平成33年度まで)を策定した。
 都道29号線(奥多摩街道)改良工事に合わせて計画していた配水管を120m新設する工事については、東京都による奥多摩街道改良工事が延伸されたため未実施となった。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	182,440,000	▲52,100,000	130,340,000	130,237,200	99.9%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
平成27年度実績	平成28年度実績
配水管新設 166.2m	配水管管種替 1,653.0m
配水管管種替 1,614.4m	配水管移設 118.9m
耐震適合率 19.5%	耐震適合率 20.4%

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
配水管の耐震化	管種替 1,636m	管種替 1,653.0m
	新設 120m	新設 0m
	移設 105m	移設 118.9m
	適合率 20.4%	適合率 20.4%
耐震化適合率		

Check(評価)

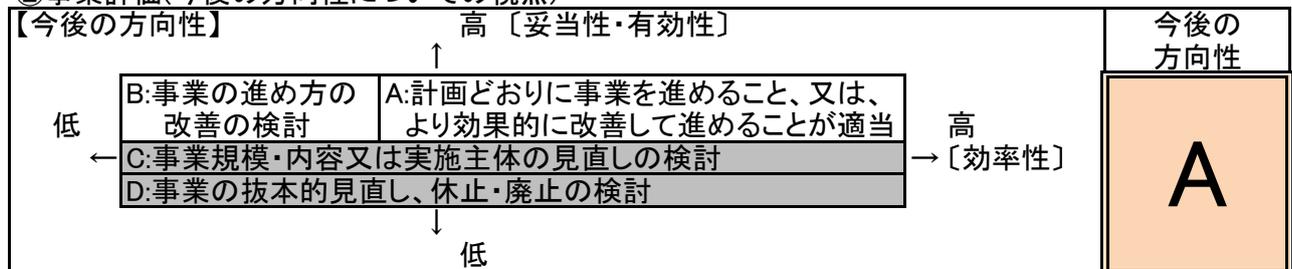
8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
 ○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

配水管の耐震化については、これまでの大規模な震災に対応すべき全国的な課題であり、着実に進める必要がある。このため、今後は、水道管の継手(つぎて)部分については耐震性に優れた継手を採用し、「水道管路耐震化更新計画」に基づいて水道管路の耐震化を推進していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	上下水道部		上下水道業務課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3	水安全計画に基づく危機管理体制の強化	不明	年継続	自治事務(市独自)	直営	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号 3

2.事業の概要

事業内容	水安全計画の運用及び監視カメラの増設により、危機管理体制の強化を図る。
根拠法令	
条例	
要綱等	厚生労働省「水安全計画策定ガイドライン」平成20年度

3.成果指標

成果目標	水源から給水栓に至る統合的な水質管理を実現し、監視カメラの設置により危機管理体制の強化を図る。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	水安全計画の運用	同左	同左 取水施設及び配水施設監視カメラ設置工事実施設計	同左 取水施設及び配水施設監視カメラ設置工事

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	2H	1人	2H	1人	2H	1人	2H
主事・主任職	2人	4H	2人	4H	2人	4H	2人	50H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	2,492	33,211
人件費(係長職)	11	10	10	10
人件費(主任・主事職)	29	28	28	340
総事業費(合計)	40	38	2,530	33,561
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	40	38	2,530	33,561
財源内訳(合計)	40	38	2,530	33,561

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円

※ 対象者: 給水区域内人口

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成25年度に策定した「羽村市水安全計画」で抽出された危害要因の監視を行い、安全・安定した水道水の供給を図った。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0		0		-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
危害要因に対する監視を実施した。 平成27年度についても現場報告を基に検証したところ給水にあたり問題はなかった。	危害要因に対する監視を実施した。 平成28年度についても現場報告を基に検証したところ給水にあたり問題はなかった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

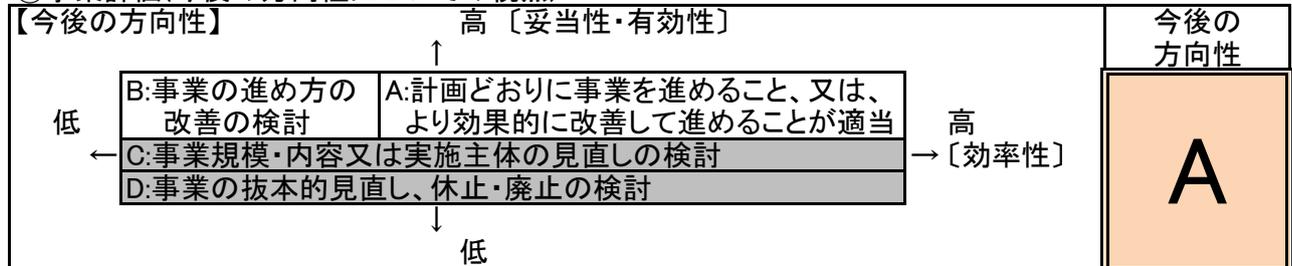
◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)



Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 平成28年度について検証を実施したが、施設や水質の監視について、問題や課題は無かったため、結果としては変更すべき点はない状況である。今後も適宜検証を行いながら、水道事業を実施していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	上下水道部		上下水道設備課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4	水道施設の計画的な更新・改修	不明 年	継続	自治事務(市独自)		
01	ポンプ分解修繕【浄水施設】	平成 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
02	配水塔耐震補強工事	平成 28 年	今年度限り	自治事務(市独自)	直営	○
03	その他修繕	不明 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号 4

2.事業の概要

事業内容	計画的に水道施設の更新・改修を実施し、機能の維持・向上・延命化を図ります。					
根拠法令	水道法					
条例						
要綱等						

3.成果指標

成果目標	計画的に施設整備（更新・維持管理・修繕）を行うことで、施設の機能維持、延命化を図るとともに、将来にわたり、安全な水道水の安定供給を図る。 膜ろ過施設の膜エレメント交換等、既設施設の適切な維持管理を行う。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	【浄水施設】 監視装置修繕 浄水池内面防水改修 【配水施設】 配水塔耐震補強実施設計 監視装置修繕	【浄水施設】 ポンプ分解修繕 【配水施設】 配水塔耐震補強工事	【浄水施設】 ポンプ分解修繕 膜ろ過エレメント修繕 【取水施設】 ポンプ分解修繕 流量計取替	【浄水施設】 ポンプ分解修繕 膜ろ過エレメント修繕 生物センサー(魚行動装置)工事 【配水施設】 ポンプ分解修繕 水道施設遠視監視装置更新 高圧受電設備更新

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	5人	388H	5人	388H	5人	388H	5人	388H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	70,227	76,854	105,284	227,651
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	6,981	6,595	6,595	6,595
総事業費(合計)	77,208	83,449	111,879	234,246
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	77,208	83,449	111,879	234,246
財源内訳(合計)	77,208	83,449	111,879	234,246

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	1,483	円
イ 対象者	56281	人における1人あたりのコストは、	1,483	円
ウ 成果物		の 出来高		円
※ 対象者: 給水区域内人口		の コストは		円

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

膜ろ過設備の膜エレメント薬品洗浄や廃液処分委託などの浄水施設の維持管理に係る業務委託や配水施設の計装機器や緊急遮断弁の保守点検委託を実施し施設の機能維持を図った。
 また、今年度は、昭和48年より給水開始している第2配水場高区配水塔の耐震補強工事を実施し、重要施設の配水塔の耐震化と継続運用ができるよう機能維持を図った。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	76,854,000		76,854,000	72,002,142	93.7%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
膜ろ過設備や第1配水場の超音波流量計や緊急遮断弁の保守点検を行い、水道施設の遠制監視装置の修繕を行った、また、浄水池の内面防水の改修を実施、水質検査機器の更新、次年度以降実施する第2配水場耐震補強工事の設計委託を実施した。	膜ろ過設備や第1水源非常用発電機、第1、2配水場電磁流量計の保守点検、浄水場送水ポンプの分解整備、遠征装置の一部修繕、水質検査機器の保守点検など実施した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性									
<table border="1"> <tr> <td>低</td> <td> B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討 </td> <td>高 [効率性]</td> </tr> <tr> <td></td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低</td> <td></td> </tr> </table>	低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	高 [効率性]		A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当			低			A
低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	高 [効率性]									
	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当										
	低										

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
水道水を安定供給するために日頃の点検や計画的な更新・改修は必要なことであり、平成28年度においては第2配水場高区配水塔耐震補強工事をはじめ浄水場送水ポンプの分解整備など実施した。また、小規模な修繕では、材料や部品を購入して職員が修理することで経費の節減に努めている。特に膜ろ過施設については、常時遠制監視によるモニタリングに加え、職員による毎週1回の点検を実施し、万全の体制で水道水を供給しているところである。今後も安定給水のために計画的な更新・改修を進めていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	上下水道部		上下水道業務課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
5	水道料金の適正化	不明	年継続	自治事務	直営	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち		施策区分	32	上水道
				事業番号		5

2.事業の概要

事業内容	平成26年4月に実施した料金改定の結果を受け、引き続き検証を行う。					
根拠法令	水道法					
条例	羽村市給水条例					
要綱等						

3.成果指標

成果目標	水道施設の更新、耐震化需要に対応するとともに、健全な事業運営を目指す。					
------	-------------------------------------	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	水道料金の適正化の検証	同左	使用料等審議会への付議 (検証結果及び経営状況等 報告)	水道料金の適正化の検証

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	580 H	1人	580 H	1人	1,100 H	1人	580 H
主事・主任職	1人	520 H	1人	520 H	1人	1,040 H	1人	520 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	2,923	2,886	5,473	2,886
人件費(主任・主事職)	1,871	1,768	3,535	1,768
総事業費(合計)	4,794	4,654	9,008	4,654
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	4,794	4,654	9,008	4,654
財源内訳(合計)	4,794	4,654	9,008	4,654

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平成28年度の給水収益は前年度比0.64%増の941,121千円(税抜)となり、平成28年度の有収水量は前年度比0.22%減の5,987,319m³となった。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	0	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
配水量は減少傾向にあるものの、平成26年度の料金改定により、今年度も一定の財源を確保することができた。	過去10年間の傾向として有収水量は減少していたが、平成28年度は減少の幅が狭まり、有収水量は低いながらも安定傾向を示している。 平成28年度は、羽村市水道ビジョン後期計画及び水道管路耐震化更新計画を策定し、平成29年度以降5年間の水道事業施策や施策実現のための財政推計を示した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
 ○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性						
低	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		↑	→	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当									
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討										
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討										
		↓								
		低								

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
水道料金の適正化については、概ね4年に1回開催される、「羽村市使用料等審議会」に付議し、検証を行うこととしており、平成29年度に開催される同審議会に付議予定である。今後も、水道事業の収入の根幹となる水道料金の適正化を図るため適宜検証を行うとともに、水道使用者に対し、水道事業に関するPRに努めていく必要がある。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名	作成部署	上下水道部		上下水道業務課	
	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
6 水道料金徴収業務の委託化	平成 19 年	継続	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	
01	年				
02	年				
03	年				
04	年				
05	年				
関連課					
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32 上水道	事業番号	6

2.事業の概要

事業内容	水道料金徴収業務全般に民間事業者のノウハウを活用し、業務の効率化及び市民サービスの向上を図ります。
根拠法令	水道法
条例	羽村市給水条例
要綱等	

3.成果指標

成果目標	委託業務を継続し、一層の市民サービス向上と事務の効率化を図る。 受付窓口、検針、調定、収納、滞納整理等の業務を民間事業者に委託する。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	民間事業者を活用した業務運営 契約更新	同左	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	116 H	1人	176 H	1人	116 H	1人	116 H
主事・主任職	2人	232 H	2人	232 H	2人	232 H	2人	232 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	61,086	69,321	67,626	67,626
人件費(係長職)	585	876	578	578
人件費(主任・主事職)	1,670	1,578	1,578	1,578
総事業費(合計)	63,341	71,775	69,782	69,782
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	63,341	71,775	69,782	69,782
財源内訳(合計)	63,341	71,775	69,782	69,782

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

委託業者との月1回の定例会において、料金収納率の状況、収納率向上に向けた取り組み結果等について報告を受け、情報の共有を図るとともに個別案件の対応方法の検討等を実施した。
 委託業者のノウハウを活用することで、料金未納者に対する連絡方法等の手段手法の見直しを図り未納額の圧縮をすすめることができた。
 定例会以外でも、週1回打ち合わせを行うなど、委託業者と職員で緊密な連携を図っている。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	69,321,000	▲ 720,000	68,601,000	68,537,512	99.9%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
月1回の定例会等で目標の達成状況の報告や問題案件の確認及び事業の進捗状況等の報告や調整を行うことで、目標値の99.29%を上回る99.38%の料金収納率を達成することができた。	月1回の定例会等で目標の達成状況の報告や問題案件の確認及び事業の進捗状況等の報告や調整を行い、また、収納率向上のための手法等の見直しを行うことで、目標値の99.30%を上回る99.37%の料金収納率を達成することができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性						
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討				A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当								
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討									
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討									
低	低	低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
水道料金の徴収業務については、委託業者のノウハウを活用することで、比較的高い料金収納率を維持しており、平成29年度以降も徴収業務を民間委託することとしている。今後も、水道事業の円滑な運営のために、上下水道業務課と委託事業者間で定期的な打合せに加え、適宜、課題解決のための打合せ等を実施し、情報を共有しながら徴収業務を進めていく必要がある。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	上下水道部		上下水道業務課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
7	羽村市水道ビジョン後期計画の策定	平成 28 年	今年度限り	自治事務(市独自)	直営	○
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	32	上水道	事業番号 a

2.事業の概要

事業内容	平成22年3月に策定した羽村市水道ビジョンの前期計画期間が平成28年度末で終了するため、平成29年度以降の後期計画を策定する。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	水道水の安定供給を確保する。
------	----------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等		平成29年度以降の後期計画の策定		

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	1人	228H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	0人	0H	1人	324H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	162	0	0
人件費(係長職)	0	1,135	0	0
人件費(主任・主事職)	0	1,102	0	0
総事業費(合計)	0	2,399	0	0
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	162	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	0	2,237	0	0
財源内訳(合計)	0	2,399	0	0

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

・平成28年8月1日に「羽村市水道ビジョン検討委員会」を設置し、検討委員会を2回開催し、平成29年1月に検討結果を市長に報告した。
 ・平成29年2月1日から3月2日まで意見公募を経て、3月27日に「羽村市水道ビジョン後期計画」を策定した。
 ・平成29年3月30日から31日にかけて、理事者、部長、議員及び水道ビジョン検討委員会委員に水道ビジョン後期計画(冊子)の配布を行った。
 なお、冊子印刷にあたり印刷費用の節減を図り事業費の支出を抑えた。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	162,000	0	162,000	99,630	61.5%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
	羽村市水道ビジョン検討委員会で「羽村市水道ビジョン後期計画(案)」を作成し、意見公募手続を実施して、平成29年3月に「羽村市水道ビジョン後期計画」として作成した。 (計画期間:平成29年度～平成33年度)

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性
	↑	→	A
低 ←	B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当		
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		
	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		
	↓		
	低		

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 羽村市水道ビジョン後期計画については、平成22年3月に策定した「羽村市水道ビジョン」において、実施期間を12年間としており、前期を平成22年度から平成28年度までの7年間とし、後期を平成29年度から平成33年度までの5年間と位置付けている。このため、平成28年度において、国が示した「新水道ビジョン」の基本理念や施策の方向性を勘案し、後期計画を策定した。羽村市水道ビジョンの基本理念である「世代を超えて続く安全で安定した水道」の実現のため、「施策の方向性と主要施策」を示しており、今後は、羽村市水道ビジョンに掲げた各施策を確実に実施していく必要がある。